



Est. 1912

よこ館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



日野市の万願寺地区には法人の施設が3施設あります。至誠いしだ保育園・至誠大空の家・万願寺保育園。歩いて各10分圏内です。なかなか普段の生活で交流することはできませんが、コロナ前はハロウィンでお邪魔したり・サツマイモ堀をさせていただいたり・お餅つきにも参加させてもらうなど保育園でできない体験は子どもたちの成長のエッセンスになっていました。

しかし、未曾有の感染症は、色々なものを壊してしまったように思います。人との交流ができない中、地域交流が一番に排除されてしまいました。このような環境が子どもに与えたものは色々あります。ある調査では、コロナ禍5歳児に4か月発達の遅れがあるという結果が新聞に掲載されていました。理由に社会性を身に付ける時期に両親以外の大人や友達と交流することが減少したことが影響しているとの事です。又、近年家庭においても地域においても人間関係が希薄化し子ども達の人とかかわる力が弱まってきているのもあるかもしれません。この状況下、保育園のできることは地域の人たちと積極的にかかわる体験をして、子ども、利用者を地域とつなげる事が大切だと思っています。

さて、3施設がある地域には下田自治会があります。地域力が低下したといわれる中、自治会を盛り上げるためにLINEで情報を共有したり、映画会、花火大会などで地域交流などを企画してくださっています。8月のふれあいフェスタというお祭りは、地域の資源を生かしながらの開催となり地域のパワーを感じております。3施設も微力ながら協力、出店し地域に貢献させていただいています。

コロナ禍失われたものを取り戻すために、地域や周囲の人たちと関わり合い支え合いながら生きているという実感を持ち続けて欲しいと願っています。まだまだ、感染は続いておりますが、少しずつ前に進んでいきたいですね。

今年の夏は猛暑でした。9月は疲れが出ますので皆様、お身体をご自愛ください。

(保育事業本部 本部長 長谷川育代)



本部事務局だより うな井大臣とストライキ

「うな井」発言大臣を始めとして国会議員の問題発言が後を絶ちません。大勢の支持者や聴衆を前にして「おもしろ話で受けを狙おう」として失敗しているのがほとんどです。しかもめっ面で難しく堅苦しい話ばかりでは支持が広がらないのは理解できますが、そこを上手くまとめるのが「言葉」で生きている政治家の腕の見せ所でしょう。

一方で、日本では、政治家の失言も疑惑も、いつしか、うやむやにされます。マスコミの追及も「人の噂も七十五日」よりも早く終わります。いつしか「いつまでも怒りを持続する人はおかしい人」とされてしまいます。そして同調圧力の前に「怒りや追及」は影を潜めます。

今、米国・EC各国では、10%を超えるハイパーインフレによる生活苦に対する「怒り」は頂点に達し、賃上げを求める公共部門のストライキは拡大し過去十数年で最大規模となっています。そこには教師・消防士・看護師などの組合も参加しています。その影響は、ゴミ収集業者のストでパリはゴミの山となったり、製油所の封鎖、高速道路や環状道路の封鎖、鉄道網の混乱、発電所のストでの停電、学校閉鎖と、影響は多岐にわたっています。

西洋諸国ではこのようなフリクション「衝突・摩擦」が社会を進歩させると考えられていますが、「和をもって尊しとなす」日本では、30年にわたって国力が落ち続けても、格差が広がり続けても、旧世代が利権に群がっていても、公文書が改竄されても、非難の声が大きな潮流となることはありません。「とことん追及しよう」などと言う人は、「いつまで怒ってるの？」という白い目で見られます。しかし、日本で一番賃金が上がったのはストライキが多かった高度成長期です。フリクションを恐れると経済も人間も成長は止まってしまいます。日本の停滞は「人口減少のせい」だけではないようです。(法人事務局長 野島忠幸)

児童事業本部

長期に渡る新型コロナウイルス感染症の流行やウクライナ戦争による経済の落ち込みは雇用や賃金に大きな影響を与えてきました。徐々に回復の兆しは見えてきましたが、日々の食費、生活品の物価の高騰+消費税 10%は、私達の生活に重くのしかかっています。大空の家(児童養護施設)を退所し、自立している青年達の近況からもみな、頑張っはいますが、厳しい生活の様子が窺えました。就労や住居、生活費の相談も増えました。この間、施設には企業や民間団体から多くの物資の寄贈があったため、自立支援担当職員が中心となり、手紙を添えて必要な物を送ったり、直接届けに行くなど彼らの実家替わりとなれるよう尽力しています。施設の生活は随分豊かになってきましたが、退所後の生活は就労を含め、まだまだ支援が必要です。来年の児童福祉法改正では、退所者への支援がより充実されていきます。退所後も「ご飯食べに行きたい」「〇〇送って欲しい」等、子ども達がいつでも声をかけやすい居場所として大空の家はありたいと思っています。

(至誠大空の家 施設長 国分美希)

保育事業本部

今年の7月は統計開始後過去最高の気温を更新、災害級の暑さといわれ日々WBGT(暑さ指数)を確認しながらの活動となりました。子どもたちが大好きなプール遊びには安全確保のための見守り要員を配置し、職員体制も工夫を重ねながらの夏を過ごしてきました。

ところで近年は少子化問題について取り上げられることが多くなっていますが、至誠保育園内では第二子第三子出産のニュースが度々聞かれています。在園児保護者が弟妹出産後の育休期間に、保護者同士が集える“育児サロン”のような空間を提供し園全体で子育てを応援したい。現理事長が園長だった頃から計画し整備をすすめており、ニドテラスの環境が整ったことで「すくすくスクエア」として昨年度からスタート。コロナ禍の妊娠期間中から外部との繋がりがなく孤立化していた保護者同士の集いのひときは、一人じゃない安心感と連帯感が生まれ毎回笑顔がたくさん見られる会となっています。“至誠ファミリー”の輪が更に繋がることを願い、至誠保育園はこれからも子育てを応援していきます。

(至誠保育園 園長 金子弘美)

高齢事業本部至誠ホーム

至誠ホームアウリンコでは、在留資格「介護」1名、特定技能1号「介護」18名、併せて19名のフォーリンスタッフが頑張ってくれています。在留資格「介護」のスタッフは留学生として来日した2018年4月から、特定技能スタッフは2020年12月からのスタートでした。

フォーリンスタッフはここまでに何人か退職者がでており、そのあとをフォーリンスタッフで補填するといった具合です。また、日本語能力は個人差が大きかったり、文化の違いからの思い違いもあったり…と、課題が残るのも事実です。しかし、フォーリンスタッフのほとんどは、介護技術を習得すること、利用者の生活のお手伝いをするに一生懸命です。3階・ショートステイに配属されているへ二さん(女性)もその一人です。実はへ二さん、採用時は日本語も厳しい状況でしたので、少し心配をしていたというのが正直なところです。しかし、とても真面目な方で、日本語も介護技術もどんどんと吸収し、一緒に働く職員が働きやすいように気配りをして仕事を進め、職員から信頼されています。また、丁寧な接遇が利用者からの信頼にも繋がっています。昨年度、介護福祉土の実習生がショートステイに入りました。期間中、実習担当の職員立ち合いのもと、指導担当教員の訪問指導がありました。「目標にする介護士さんは見つかった？」の教員の質問に対して実習生の答えは…「はい。見つかりました。へ二さんです！」

目標にされるほどの素敵な介護士に成長したへ二さんに大拍手！！

《実習生の観察力にも拍手！！》

(至誠ホームアウリンコ 施設長 吉上恵子)

(編集後記)先日、大宮にある鉄道博物館へ出掛けました。新幹線が走行している所を見られたり、日本で最初に運行されていた蒸気機関車(指定文化遺産)が展示されていたりと見ごたえ抜群でした。日本人だけでなく、海外旅行客も多く、最近はどこに行っても人・人・人！コロナ前の日常に戻りつつありますね。(小)